

光触媒を超えた新触媒！

暗闇でも活性する

子どものために
清潔な家にしたい

ウイルスが心配

スギ花粉で
つらい！

ウイルスガード

インフルエンザ・コロナ・ノロウイルスなどの予防に！

高い抗菌・抗ウイルス効果！

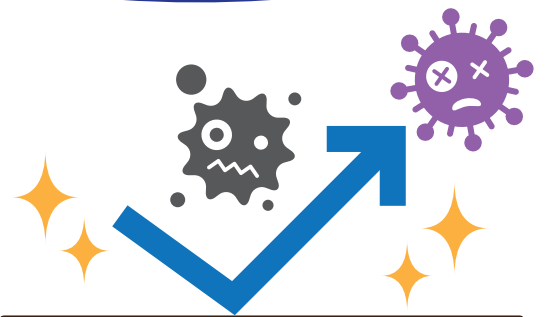
インフルエンザウイルス・ネコカリシウイルスの
抗ウイルス性試験で SEK 基準を上回る結果に！！

アレルゲン不活性化！！

「ダニ虫体」で 98.1%以上の低減率、
「スギ花粉」では 99.6%以上の低減率を確認！！

※ウイルス性試験・アレルゲン不活化試験で実証済み

詳しくは裏面をご覧ください！



持続期間

- 手等が触れない場所：4～5年
- 日常的に触れる場所：1年

※上記は参考としての期間であり、実際の環境・使用場所により異なります。

ウイルスガード

建具ドアノブ 窓取手 キッチン

洗面台 浴室 トイレ インターホン

19,800円 (税込)

室内壁面をプラスした
オトクなパック

ウイルスガード プロ

建具ドアノブ 窓取手 キッチン

洗面台 浴室 トイレ インターホン

+

室内壁面

29,700円 (税込)



Hh ハウス・トゥ・ハウス・ネットサービス株式会社 管理営業本部 担当：PM課

ハウス トゥ ハウス サア イイ ナ 【営業時間：10:00～18:00 / 定休日：水曜日】
0120-828-317 ☎ **03-3903-7779**

〒115-0045 東京都北区赤羽1-6-5 KAZAMAビル2F Mail: kanri@housetohouse.co.jp

POINT1 光触媒よりスゴイ！

今までの防カビ・抗菌・防臭・防汚の触媒について

光触媒は光が当たらないと活性反応が起こらない…

これまで、防カビ・抗菌・防臭・防汚には「光触媒」が利用されてきました。光触媒は光のエネルギーで科学反応を起こし、その結果抗菌や防汚などの働きが生じる作用です。しかし、光触媒は光（紫外線）が当たらないと活性反応が起こらないという欠点を持っています。その欠点を克服した新しい触媒が「ウイルスガード(チタンとケイ酸のカップリング製品)」です。

光は使わず、自然放射線のエネルギーで化学反応を起こす

光がまったくない暗所でのエネルギーの供給源は放射線以外にはなく、高い抗菌・防臭は自然放射線による励起の結果によるものであるとして、この作用を「自然環境放射線触媒」と名づけられました。

光のエネルギーで反応を起こす



光が当たらないと反応しない



5つの特長

- 暗くても高い効果を発揮
- 毒性「0」なのに高い抗菌効果
- 母材を傷めず高い密着性
- 長く安定した効果を持続
- あらゆる物や場所に塗布可能

POINT2 効能のエビデンス

高い抗菌効果！ウイルス性試験・アレルギー不活化試験で実証済み

インフルエンザウイルス・ネコカリシウイルスの抗ウイルス性試験でSEK基準を上回る結果

一般社団法人 繊維評価技術協議会は、繊維状の特定のウイルスの数を減少させる製品に「SEKマーク(抗ウイルス性加工マーク)」の認証をしています。評価基準は、繊維製品の国際標準の試験方法「抗ウイルス性試験方法」です。SEK基準では活性値「3」以上が十分な効果と認められています。ウイルスガードはそれを上回るデータでクリアいたしました。

【インフルエンザウイルスでの抗ウイルス性試験】

試料	ウイルス感染価(PFU/vial) ※2 常用対数平均値		減少値【M】※4	抗ウイルス活性値【Mv】※3
無加工試料※1	接種直後【lg(Va)】	6.77	0.4	
	2時間放置後【lg(Vb)】	6.34		
液剤(KF-70W)	2時間放置後【lg(Vc)】	<2.30	—	≥4.5

※1 無加工試料：標準布(綿) ※2 PFU:plaque forming units ※3 抗ウイルス活性値【Mv】= lg(Va) - lg(Vc) ※4 減少値【M】= lg(Va) - lg(Vb) (試験成立条件：減少値【M】≤1.0)

※試験概要…試験ウイルス：A型インフルエンザウイルス(H3N2) A/Hong Kong/8/68;TC adapted ATCC VR-1679. 宿主細胞：MDCK 細胞(イヌ腎臓由来細胞)、試験担体(標準布):0.4g、洗い出し液：SCDLP 培地、接触条件：25℃、2時間、感染価測定法：プラーク測定法

【ネコカリシウイルス(ノロウイルスの代替)での抗ウイルス性試験】

試料	ウイルス感染価(PFU/vial) ※2 常用対数平均値		減少値【M】※4	抗ウイルス活性値【Mv】※3
無加工試料※1	接種直後【lg(Va)】	6.94	0.3	
	2時間放置後【lg(Vb)】	6.62		
液剤(KF-70W)	2時間放置後【lg(Vc)】	<2.30	—	≥4.6

※1 無加工試料：標準布(綿) ※2 PFU:plaque forming units ※3 抗ウイルス活性値【Mv】= lg(Va) - lg(Vc) ※4 減少値【M】= lg(Va) - lg(Vb) (試験成立条件：減少値【M】≤1.0)

※試験概要…試験ウイルス：ネコカリシウイルス(F-9) Feline calicivirus; Strain:F-9 ATCC VR-782. 宿主細胞：CRFK 細胞(ネコ腎臓由来細胞)、試験担体(標準布):0.4g、洗い出し液：Fetal Bovine Serum を終濃度 10% になるように添加した SCDLP 培地、接触条件：25℃、2時間、感染価測定法：プラーク測定法

アレルギー不活化試験結果「ダニ虫体」で98.1%以上、「スギ花粉」では99.6%以上の低減率を確認

ウイルスガードを塗布し、それにアレルギー物質が付着した時にどの程度低減できるかという内容です。結果、「ダニ虫体」で98.1%以上の低減率、「スギ花粉」では99.6%以上の低減率を確認できました。検体と対照にアレルギー溶液を所定量添加し、4℃で16時間反応させます。反応後アレルギー溶液を回収し、そのアレルギー濃度をELISAにて測定しました。(検体：ウイルスガード、対照：ブランク)反応後の検体と対照のアレルギー量を比較することにより、検体によるアレルギー低減率を算出しました。

